



▲市が設置した不法投棄防止の啓発看板。不法投棄をすると、懲役や罰金などが科せられます。



▲春・秋、市内一斉に行われる『クリーン作戦』

をお願いしています。市民の方からの通報も多く、今後ともご協力をお願いします」と田村さんは呼び掛けていました。

一人ひとりの取り組みで きれいなまちを！

「市内全体を見ると、依然として、ごみのポイ捨てが多いように感じますね」と話すのは、新川第二町内会会長で、登別市衛生団体連合会会長の永田政治さん。



永田 政治さん

登別市衛生団体連合会では、春と秋の年2回、クリーン作戦を市内全域で実施し、きれいなまちづくりに取り組んでいます。

「登別にはたくさんのお客が訪れていますので、きれいなまちで迎えたいですね。何よりも自分のまちがきれいなことは、私たちの誇りになります。まちの美化は行政まかせではだめ。町内会などを中心に、地域全体で市民一人ひとりが取り組むことが大事だと思いますね」

永田さんが会長を務める新川第二町内会では、『ごみのない町内

会』をスローガンに掲げ、まちの環境美化に対する会員の意識を高める取り組みを行ってきました。

「クリーンリーダーの研修やごみ分別の勉強会、ごみステーションの徹底した管理などに長年取り組んできた結果、町内からごみが減り、クリーン作戦に参加する会員も増えてきました。まずは、私たちに身近なところからきれいなまちづくりに取り組むことが必要ではないでしょうか」

山や川を自分のもの 思っ、大切に

「昨年は、近年にないほどの大量のごみを回収し、その量は軽トラ3台分にもなりました」と話すのは、登別山岳会会長の河村勝さん。

登別山岳会では、毎年5月、カムイヌプリ山開きの前日に登山道の清掃を行っています。後を絶たないごみの不法投棄に、会員は胸を痛めています。

「じゅうたんや家財道具にまじり、タイヤ、ホイール、洗濯機、



河村 勝さん

発泡スチロールなどが大量に捨てられていました。登山中も、山菜採りで入山した人のものと思われるペットボトルや弁当の容器が捨てられているのを見かけます。

登山者は、新鮮な空気と緑を求めて山にやってくるのに、逆に不快な思いにさせられてしまいますね」

河村さんに市民の皆さんへ伝えたいことを尋ねると、「山から川に水が流れる過程で、捨てられたごみが私たちの飲み水を汚すことにもなりかねません。市民の皆さんには、自分が登山者かどうかに関係なく、山や川は自分のものと思っ、大切にしてほしいですね」と話していました。

浮かび上がる モラルの低さ

お話を伺った3人の方とも、不法投棄をする人のモラルの低さを嘆き、家庭教育の問題を指摘していました。私が現場を見てきた不法投棄のごみは、そのほとんどが数百円の手数料で処分できる量といます。

ごみで汚れた街と暴力、犯罪。主としてアメリカ映画に映し出される寒々とした風景と荒れた人びとの心、そんな映画のワンシーンを思い出しながらの取材でしたが、ごみと環境破壊、改めて問題の大きさを思い知らされました。

あなたも市民リポーターになって、市内の話題やまちの動きなどをレポートしてみませんか。平成17年度市民リポーターについてのお申し込み・お問い合わせは情報推進課（広報広聴） ☎65806 まで。